

抗 HIV 薬（ビクタルビ®錠）

2019年4月、抗 HIV（Human Immunodeficiency Virus）薬のビクタルビ®配合錠（一般名：ビクテグラビルナトリウム／エムトリシタビン／テノホビルアラフェナミドフマル酸塩）が発売されました。

RNA ウイルスである HIV は、①レセプター（CCR5 など）を介して宿主細胞内に侵入、②逆転写酵素により RNA から DNA に逆転写、③インテグラーゼにより宿主 DNA に組み込まれて増殖、④最後に、プロテアーゼで切断されて、出芽します。これらの酵素はすべて HIV 自身に由来する酵素なので、阻害しても正常細胞には影響を及ぼしません。抗 HIV 薬には、核酸系逆転写酵素阻害薬（NRTI）、非核酸系逆転写酵素阻害薬（NNRTI）、プロテアーゼ阻害薬（PI）、インテグラーゼ阻害薬（INSTI）、侵入阻害薬（CCR5 受容体拮抗）があります。

HIV 感染症に対する治療法は、単独の薬剤で治療すると急速に薬剤耐性を獲得するため、作用点異なる薬剤を3～4剤組み合わせる抗レトロウイルス療法（ART:anti-retroviral therapy）が標準です。抗 HIV 治療ガイドラインでは、初期の ART として HIV を抑制する効果が強力な薬剤〔インテグラーゼ阻害薬、少量のリトナビル、もしくは薬物動態学的増強因子（ブースター）のコビスタットを併用したプロテアーゼ阻害薬、非核酸系逆転写酵素阻害薬〕から1剤を「キードラッグ」とし、それを補足してウイルス抑制効果を高める核酸系逆転写酵素阻害薬2剤を「バックボーン」と称して併用します。そのほか、長期投与に伴う副作用や医療費の軽減目的で2剤併用療法もあります。

ビクタルビは、ブースターを必要としない新規インテグラーゼ阻害薬のビクテグラビルと、既存の核酸系逆転写酵素阻害薬のエムトリシタビンおよびテノホビルアラフェナミドの配合薬です。食事と関係なく服用でき、錠剤も小さいです。ビクテグラビルおよびテノホビルアラフェナミドは CYP3A、P 糖タンパクの基質となるため、これを誘導する作用のある薬剤との相互作用があります。また、1剤で治療が完結するため、ほかの抗 HIV 薬とは併用できません。

商品名	ビクタルビ®配合錠
一般名	ビクテグラビルナトリウム／エムトリシタビン／テノホビルアラフェナミドフマル酸塩
会社	ギリアド・サイエンシズ株式会社
適応	HIV-1 感染症
用法・用量	通常、成人には1回1錠を1日1回経口投与する
併用禁忌	リファンピシン、カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトイン、ホスフェニトイン、セイヨウオトギリソウ含有食品
副作用	頭痛、下痢、吐き気、めまい、倦怠感など
薬価	1錠 7,094.10 円

使用に際しては、添付文書を必ずお読み下さい。

主な3剤療法の抗 HIV 薬

分類	NRTI ベース			NNRTI ベース	PI ベース
商品名 (会社名)	トリメク (グラクソ)	ゲンボイヤ (ギリアド)	ビクタルビ (ギリアド)	オデフシイ (ヤンセン)	シムツォーザ (ヤンセン)
インテグラーゼ阻害薬 (INSTI)	ドルテグラビル	エルビテグラビル	ビクテグラビル		
増強因子	コビスタット				コビスタット
プロテアーゼ阻害薬 (PI)					ダルナビル
非核酸系逆転写酵素阻害薬 (NNRTI)				リルビピリン	
核酸系逆転写酵素阻害薬 (NRTI)	アバカビル	テノホビルアラフェナミド	テノホビルアラフェナミド	テノホビルアラフェナミド	テノホビルアラフェナミド
	ラミブジン	エムトリシタビン	エムトリシタビン	エムトリシタビン	エムトリシタビン
食事の影響	なし	食後	なし	食中	食直後

スタリビルド→ゲンボイヤ*、コムプレラ→オデフシイ*、ツルバダ→デシコビ*

*=テノホビルのプロドラッグであるテノホビルジソプロキシル (TDF) を、1/10量で同程度の抗ウイルス効果を示すテノホビルアラフェナミド (TAF) に代えた配合薬